11月 あぐり通信

ＪＡ兵庫みらい
営農経済部　あぐり創生課
ＴＥＬ　０７９０－４７－１２８２
ＦＡＸ　０７９０－４７－１６７４

２０２６．１１月号

園　芸　【ミズナを作ろう】

効能

ミズナには抗酸化成分のビタミンC、β - カロテン（ビタミンA）を含み、栄養価の高い野菜です。疲労回復、動脈硬化予防、免疫力アップなど様々な効果が期待できます。

品種と栽培ポイント

品種には、早生、中生、晩生があり、この順番で葉色は濃くなり、耐寒性が強くなるなどの特徴があります。生育適温は15℃～25℃で適温以上では軟弱徒長し、適温以下では伸長が鈍ります。低温で花芽ができて、その後の高温でトウ立ちしやすくなります。また生育初期は十分な水が必要ですが、後期は湿害が出やすいので水のやり過ぎに注意しましょう。

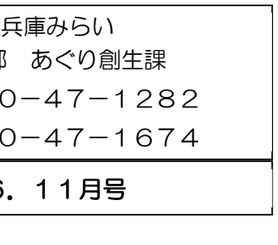
畑の準備、種まき

種まきは10月～11月頃で、種まきの1ヶ月前に堆肥約3kg/㎡、2週間前にセルカ約100g/㎡と深さ30㎝くらいまでよく耕しましょう。

種まきの1週間前に果菜ゴールデン有機を約100g/㎡を散布し、よく土と混ぜて下さい。

15㎝～20㎝間隔で2～3列の条まきにします。深さ1㎝程度のまき溝をつけ、2～3㎝間隔で種まきを行います。

まき終えたら、薄く土をかけ、不織布でトンネル掛けにします。



種まき後の栽培管理（間引き）

間引きは、子葉が開ききった頃に1回目をおこないます。
密植している株や、伸びすぎた株を間引きます。2回目は本葉2枚の頃で株間が7㎝～8㎝になるよう間引きをおこないます。

それでも混み合っているようなら、3回目の間引きを行います。本葉3～4枚の頃が目安です。

病害虫の防除について

生育初期よりアオムシやコナガの幼虫などの被害が大きいため播種直後から、不織布や防虫ネットをトンネルがけ、またはうね全体にベタがけにするなどの耕種的防除をすると効果的です。

同じアブラナ科の作物を連作で栽培すると、アブラナ科共通の土壌伝染病や害虫が発生するので、注意が必要です。

気になる点があれば最寄りの営農生活センターまでご相談下さい。

水　稲　【除草剤の体系処理で畦畔管理の労力軽減】

今回は、除草剤の体系処理によって畦畔の草刈り作業の回数を減らす方法を紹介します。

まず12月～3月上旬のなるべく気温の低い時期に「カソロン粒剤」を散布すると、5月上旬～中旬までの残効が期待でき、雑草の発生を遅らせる事ができます。その後、雑草が生えてきたタイミングで、「ザクサ液剤＋カーメックス顆粒水和剤」の混用散布をおこなう事で、45日～60日程度、雑草の発生を抑え、夏場の草刈り回数を減らすことができます。

【各除草剤の性質と特徴】

ザクサ液剤は、一年生雑草や多年生雑草、スギナ、ツユクサなどの難防除雑草も素早く枯らすことができます。また根は残すタイプの除草剤なので、畦が崩れにくいのが特徴です。

カーメックス顆粒水和剤は、土壌処理型の除草剤で、雑草発生前に全面土壌散布をおこなうと雑草の発生を45日～60日程度抑制することができます。

カソロン粒剤は、一年生雑草や広葉雑草、スギナなどの難防除雑草にも高い効果があります。使用時期は雑草発生前で、**土壌にできるだけ均一に散布しましょう。**また、カソロン粒剤は温度によってガスを発生させて雑草の発生を抑えるため、散布後の気温が高ければ残効が短くなる事があります。そのような場合は、暑さの厳しくない5、6月は草刈りをおこなうか、ザクサ液剤単剤での散布による雑草対策をおこないます。夏場の暑い時期に「ザクサ液剤＋カーメックス顆粒水和剤」の混用散布をおこない、残効が長く残るように工夫して使用し、暑い時期の草刈り作業を軽減しましょう。



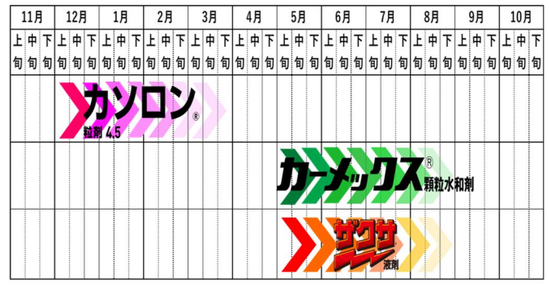
カソロン粒剤



ザクサ液剤

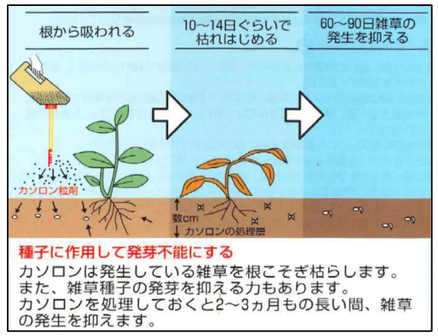


カーメックス顆粒水和剤



【稲刈り後のカソロン粒剤散布によるヒレタゴボウ対策】

近年黄色い花が咲く「**ヒレタゴボウ**」が水田でよくみられるようになりました。中干し後に多く発生するため、田植え直後の除草剤だけで発生を抑制することは難しく、多くの種子を残すので一度発生すると年々増加します。**カソロン粒剤を稲刈り後に散布**することで、水田内の雑草種子に作用して翌年の雑草密度を減らすことができます。



稲刈り後処理のポイントとしては、散布前の秋耕はなるべく避け、年内に散布を行い、散布後は春先まで耕うんしないでください。

◎詳しい使い方につきましては、最寄りの営農生活センターまでご相談ください。

【農作業事故に注意しましょう！】

日没が早まるため、無理のないスケジュールで作業しましょう。

夕暮れ時には夜光反射材を身につけるなど、周囲に気づかれやすくする工夫をしましょう。

一人で作業する場合は、家族に作業場所と帰宅時刻を伝え、携帯電話を持ち歩くようにしましょう。

問い合わせ先

加西営農生活センター	三木営農生活センター	小野営農生活センター
TEL0790-47-1286	TEL0794-82-6150	TEL0794-63-6905